

0473

七

孟買視察報告

海軍大臣計櫻孝太郎

孟買視察報告

本邦孟買、碇泊中公務、餘暇以テ視察調査セル事項ヲ録シ以テ報告スルヲ左ノ如シ

商港上ノ景況

貿易及輸出入概況

孟買市北緯十八度五十分、東經七十三度四十分、位元印度國第一ノ商港地ニシテ市街平坦人家稠密人口大凡ハ千萬餘トス

抑々印度ハ古代より各種ノ産物ニ富ムル國ニシテ今日ニ於テ最モ盛況ヲ呈スルモノハ綿花ナリトス古代各國未タ交通ノ道開ケルノ時ニ當リテ既ニ亞利比亞人ト交通ヲ開始シ年々貿易ヲナシ亞利比亞人ハ遂ニ地中海沿岸ノ各人種ト交通ノ道ヲ亞非利加ニ依リテ起シ印度人ハ東洋上南高麗日ノ道ヲ開キタリ即チ右二國ノ人民ハ東西兩洋今日ノ通商貿易ヲ開始セシメタル起源ト云フモ可ナリ今七百七十年ニ至リテ夫那ト交通ヲナシ互ニ

物産ラ交換シテ千八百五年ニ於テ其輸出モ綿花ハ萬相(萬相三百七十九斤)ノ巨額ニ達セリ又本年千八百十三年ノ頃ニ至リテ大ニ英國ノ綿花輸出ノ計畫ヲナシテ千八百五十年ニ於テハ各國ノ輸出モ綿花モ僅七千七百六十四万七千二百六十九斤ノ巨額トナリ其後四十年ヲ経テ千八百九十二年ノ輸出額ハ實ニ三億九千二百九十三万四千四百八十八斤トナリト云フ

右如クシテ物産ノ輸出増加シテ外國ト通商頻繁トモ後ニ自國ニ於テ亦外國品ノ輸入ヲ要シ市場改革ニ盛況ヲ呈シ千八百六十四年ノ頃ニ至リテ諸會社銀行紡績會社汽船會社鐵道會社ノ類相踵テ起リ遂ニ今日一大市場トナリ

紡績會社ヲ如キモ千八百五十六年ノ調査ニ依リテ其教拾三ヶ所アリモ千八百八十年ニ至リ四十二ヶ所トナリ千八百九十三年ニ九十八ヶ所ノ多キニ達セリ又右紡績事業ノ爲メ使用スル職工千六百六十六年ニ七千七百三十三人千八百八十年ニ三万五千四百八十九人千八百九十三年ニ至リテ八万三千九百六十八人ナリト



云フ右職工人負ハ一ノ年間ニ使用セ人負ラ一日ニ平均トモノヲ示セシヤリ
 在外猶内地各所ニ紡績所設テアリテ重モ自用ノ需用ニ應シ而テ餘
 裕足ルハ皆之ヲ孟買ニ市場ニ積出シ以テ輸出品ニ充ツルモノ、如シ現今
 ノ景況ニテハ支那ニ輸出スルモノハ巨額ナリト云フ

以上單ニ紡績業ノ發達進歩ヲ示シタル、過キテ印度物産ニシテ外國
 ニ輸出スルモノ猶他ニ鴉片、茶、煙草、穀物類、寶石等諸種アリ

鴉片ハ直ニ支那ニ輸出スルモノニシテ内地各所ニ於テ製シテ上孟買市場ニ
 送附シ来ルナリ是、商業ヲ管ルモノハタテ「ジエ」人「パー」人感ハ印

度内地ニシテ種族ニシテ孟買市場ニ於テ取引ヲ為ス其額夥多ト云フ
 支那ニ輸出スルモノタテ香港ニ送附ス而テ一ノ百九十二年ノ輸金額ハ

一カ三千二十一「パンド」トウエ「ト」ニシテ前年ニ比スレハ割五ノ減額ナリ
 鴉片ノ輸出ハ年々其額ニ減スル傾向ナリト云フ

印度ハ其商業大ニ發達シ現今世界各國殆ト通商貿易セリ所

ナラ而テ年々其額ヲ增加スル勢ニシテ今其輸入品ニ對スル金額ヲ考
 クレハ千九百九十二年ニ三億六千七百三十三萬三千三百三十三圓ニシテ千九百
 九十二年ハ三億九千九百九十八萬九千九百九十九圓ニシテ而テ輸入品ノ重モナルテ
 ハ衣服織物類、裝飾器具、砂糖、石炭、銑具類、酒器、械、金屬、茶油、
 玻璃器、其他、雜貨等ナリ

製器械類、輸入スルモノ重キニ紡績器械ナリトス是レ紡績業ノ進歩發
 達ト共ニ其需用增加スルノ故ニ以テナリ

千九百九十二年ニ輸入セル紡績器械ニ對スル金額ハ千二百六十九千七百
 四十九圓ニシテ前年ニ比スルニ百五十萬五千五百七十九圓ニシテ
 増額ナリトス

以上ハ輸出入品ト付テ概泛ナリ印度ヲ諸外國ノ輸出入品ト付テ貨物モ亦
 巨額ニシテ千九百九十二年ノ調査ニ依リハ其金額輸入品ト超過ス
 ルノ千九百九十二年ハ千九百九十二年ノ輸出



物金額總計、四億六千五百七十九万六千六百九十七圓、山ナリトス。輸出
 品、重モルモノ、綿花、薯蓣材(鴉片ヲ含有ス)穀物、麻種子類、茶、珈
 啡、象牙、金屬類、護護、薑、木材、胡椒等ナリトス。
 種子類、輸出スルモノ、重モト、亞麻仁、菜種、シシヅリ、山落花生等、數
 種ニ限ルト云フ。孟買ヨリ諸外國、輸出スルモノ、ニテ尤モ巨額ナル、綿花
 ヲ以テ第一ト爲ス。而テ之レニ次クモ、ヲ穀類ナリトス。
 左ニ記載スル、千八百九十二年并、千八百九十三年ニ於テ、商品ヲ積載シ
 孟買港ニ出入セリ。船舶數并、其噸數ヲ示シタルモノナリ。

千八百九十二年	船舶數	噸數	千八百九十三年	船舶數	噸數
入港船舶	一〇二〇	二三三、八九四	入港船舶	九七八	二四〇、七二三
出港船舶	一〇〇五	三三九、〇五五	出港船舶	九二八	二〇八、五七三

石炭真水糧食品其他諸物價

孟買市諸器械工場紡績會社等設立多ク又船舶之支モ亦
數ナラザルシテ石炭消費後テ多額ナリ

石炭商重モ尤モ六七會社アリ亦船碇泊ノ際ニ於テ「カービツ」出
一噸ニ付於此處崗ハ可レシヨリ武於武參崗迄ク相場トス右港内碇

泊船舶供給ニ代價トシテ運送ニ要スル「ライター」船及人夫等
シ合有ス若シ市内ニ於テ直接購買スルハ幾分カ其代價減スナリ

真水ハ孟買市ヨリ三十哩或ハ六十哩北都ニ湖水ヨリ市内ニ導キ人
民一般供給スルニシテ艦船積込モ亦同質ナリ右政府ノ有ニ屬

シ一噸ノ代價毫崗十二アンナ内外ナリ
印度ハ古来ヨリ穀類富ム用テ現今歐洲人ニ居住スルモ多ク

至リシ為メ牛羊雞豚類又大ニ増殖ノ道ヲ設ケタリ以テ糧食品
ノ供給甚ク容易ナリ價格至テモ他港ニ比シ人庶ナリト謂フヘシ



即千艦船へ供給する代價、大畧ヲ示サシ

生獸肉 十二斤ニ付 壹圓

生野菜 壹斤ニ付 壹圓

麵包 十二斤ニ付 壹圓

鶏卵 壹打ニ付 四圓

豆類 壹斤ニ付 貳圓

砂糖 百斤ニ付 拾五圓

麦粉 陸軍 百斤ニ付 拾九圓

菓物、バナナ、蜜柑、マレコ、パイナップル、無花果等、數種アリテ、

ナニヲ尤モ廉價ナリトシ、(壹打ニ付三圓ニ付) 而シテマレコ、ナニヲ尤モ貴シ

トス、(壹打ニ付拾四圓ニ付)

各國ホテニ等、食卓上ニ於テ珍味、一種トシテ世々有名ナル「ボニヘ」

ガツシハ、即チ此地、名産ニシテ如何ニ糧食販賣店、於テモ之得

ル一客易かりトス而テ其價千何ニ付忒留内外ナリ

抑モホレバトダツルハ五寸程ヲ小魚干物ニシテ或ハ之ヲ「ドライダック」ト曰フ其形細ク長クシテ我鮮ニ似タリ

其他食品香料等或内地、産スルモノ又ハ外国ヨリ輸入シ来レルモノアリ何レモ得ルニ困難ヲ感スルモノナリ代價モ亦割合ニ貴カラス

郵便電信鉄道ノ交通并其價銀

中央郵便局ハ「アホ」波止場ヲ數所ノ距離ニ隔キスシテ尤モ交通ニ往來ニ便利ヲ所ナリ其建築廣大美麗ニシテ千八百九十九年

四月エラ起シ千八百七十二年十月全ク竣工シ告ケテリ而テ建築費ハ五拾九萬四千四百ハ「ヒ」シラセリト云フ

孟買ヨリ歐洲或ハ亞細亞地方ニ向ヒ定期航海船ヲ発スルモノハ重モ「ロ」ール汽船會社ナリトハ會社千八百九十四年財孟買ヨリ英國ニ向

テ定期出航ハ一月ヨリ五月迄毎週土曜日午後二時六月ヨリ九月



迄ハ毎週金曜日午後五時十月より十二月迄ハ毎週土曜日午後二時ナリ
而シテ各埠(郵便物ヲ運送ス

又内地ヨリ香港ヲ経テ日本ヘ向ケニ週間ニ一回定期航海船アリ即チ
日本オシ會社汽船ニテ横濱ニ至ルモノナリ

孟買横濱間豫定航海日數ハ二十七日ニテ上等船客船賃ハ五百圓
掛ルヒトナリ

現今ニ至リハ我郵船會社ヲ於テモ内地ヘ向ケ定期航海船ヲ發スルヲ
以テ一般ノ便益少カラザルヘシ

孟買ヨリ支那濠洲、日本ヘ向ケ發スル郵便船ハ千八百九十四年間ハ
毎月二回若シテ三回ニテ二週日目ノ本曜日ニ定期トス

郵便切手代價通常書面ニ五分ヲシスル毎ニ式アリテ半ニシテ新聞紙
ノ類ハ式ヲシスル毎ニ半アリテナリ而シテ見本品ノ類ハ四ツニ区迄ハ港
ニシテ式ヲシスル増スル毎ニ半アリテナリ増スル制ナリ

右ノ外猶汽船會社アリテ政外其他各用定期航海ヲナス即チ

一「オーエトリヤレ、ロイツ、エチム、ナブイゲーション」會社

二「アンカー」會社

三「ブリヂ、インディヤ、エチム、ナブイゲーション」會社

四「ホーレ、ライン、オフ、スターマシ」會社

五「ペニンシユラ、エントオリイタル、スチム、ナブイゲーション」會社

等ナリ右第五會社より濠洲支那日本等へ發スモアリ横

濱、孟買間、貸銀ハ六ヶ月間有効往復切手ニテ上等七百

五拾ルビシ中等四百五拾ルビシナリ

中央電信局ハ中央郵便局ニ接シタル「エス、フラス」ト稱シナリ

千八百七十一年十月エラ起シ千八百七十四年四月竣エリテ其建

築費ハ五拾四万四千五百九拾七ルビシヲ費シタリ云フ

孟買より日本へ發ス電信料七種ノ區別アリ即チ其途路



依テ増減アルモトス而ノ尤モ廉ナルハ香港ヲ經ルモノニシテ一諸
 付四ルビ止ル港「アン」セナリ尤モ其價アルハ「コ」テラント呼バ地方ヲ
 經過スルモノニシテ一諸「付」セルビ止ナリ何レモ到着時間ニ至テ大
 差ナシ故、香港ヲ經ルモノシ尤モ善トス
 政州諸国「發」ス電信料一諸三ルビ止一「ア」セナリ
 鐵道ハ孟買より内地ニ向テ發スルモノニ總アリ一「大」印度半島鐵
 道ト曰ヒ一「孟」買「バ」ロ「ン」中央印度鐵道ト云フ
 大印度半島鐵道ハ孟買并「コ」ラ「ト」間ヲ往來ス兩停車場
 共一日ニ六回ツ發車ス上等汽車賃七ルビ止セ「コ」ラ「ト」中等ハ其
 半額下等ハ亦中等ノ半額ナリトス
 孟買「バ」ロ「ン」中央印度鐵道ハ孟買并「バ」ッ「セ」ー「ン」間ヲ往來
 ス右兩所間一日三回ツノ發車ナリ上等汽車賃二ルビ止ニ「ア」シナ
 シ中等下等割合ハ大印度半島鐵道割合ニ合シ

大印度半島鐵道之孟買市中央を「ホーンビ」街「ヴィクトリア」
 ターミナス停車場より發車シ都府「カルカッタ」及び「マドラス」等
 印度内地ヲ横過シ其東岸及ヒ西岸ニ通スル北線路ナリトス
 孟買バロツ中央印度鐵道ハ市南端「アホ」波止場ヨリ
 數町ニ過ギガレ「ゴラバ」停車場ヨリ發車シ印度西北ニ向フモノハ
 北線路ナリ

「ヴィクトリア」ヤ「ターミナス」停車場ハ其建築廣大美麗ナル「孟
 買」市第一建築物ナリト云フヲ憚カズ其建物ハ前面即チ往來ニ
 面スル部分ハ長サ二万五千呎（大九四町）ニシテ「ホーンビ」街ハ片側ハ
 停車場ナリト云フ可シ

乗客待合所、食事場、切符賣渡場等ハ皆棋盤形ニ美
 麗ナル石ヲ敷キ詰メ壁ニ赤、天井等ハ青色ヲ用ヒテ、金竹シテ
 裝飾シ屋根及入口等ハ支柱ハ皆壯麗華美ナル大理石柱シ



用ヒタリ歐州各國より此地ニ来ル者皆同傳車場ヲ覽ミテ歎賞セザル者ナシト云フ

國面ヲ開キテ印度内地ノ鐵道線路ヲ見ルニ實ニ蛛網ノ如クシテ文明ヲ以テ世界ニ稱セラレ、政お各國ニ譲ルトコトナシ亦其繁盛ヲ知ルニ足ル

銀行及諸會社ノ景況

孟買市ニ於テ重モル銀行ハコロンガル銀行孟買銀行トナリ
上海銀行香港上海銀行日一シヤン銀行トナリ
ナリエトシテ銀行等ニテ猶他、二十ヶ所、銀行アリ
諸會社、重モルモノハ紡績會社九十八ヶ所アリ通運會社七ヶ所
アリ汽船會社十ヶ所アリ鐵道會社アリ建築會社アリ在斯會
社アリ綿花會社アリ諸器械製造會社アリ其他項目會
社製造會社鐵道馬車會社等枚挙スニ遑ラズ

カルクツ近傍ニ於テ
石炭ヲ採掘スル密モ
其質ニ善良ナラザル
ノミナラズ、孟買市
於テハ消費額ニ對シ
分ヲモ補フニ足ラズ

銀行諸會社共皆相應ニ役負アリテ其事務ヲ處理シ業務ヲ
發達進歩ニ汲クタルモ、如シ然レハ各會社、株數資本金等
其他詳細事項ニ至テ、碇泊日數、短ト上陸時間、少キトハ
依リ精細ニ調査報告スルヲ得ズ

水産、鑛産物

水産物鑛産物等即度ヨリ産物出スルモ、甚ク少キ、金銀、
輸出スルモノヲ先ツ第一ト為ス、鐵、鋼、銅、錫、水銀等ニ皆英
國其他ヨリ輸入シ、末リ寶石類亦英國ヨリ來ルモノ多シ
土人ニ金銀ニ細ユシ好クシ、廉價ニ貨銀ニ以テ婦女ニ裝飾品ニ
制ス、又土人ニ細クシ、富裕ナル者ハ皆寶石若クハ象牙、電
甲等ヲ用ヒテ頸飾、腕飾、戒指等ヲ為ス、又貝殼、類ヲ用スルアリ
税関ニ関スル件
孟買市上陸者所持品ニ對スル規則一般ニ左如シ



一 武器、彈藥、酒、酒精、麥酒、塩、鴉片、煙草ヲ携帶上陸スル者ハ納税ニ義務シ有ク

一 前記物品ヲ携帶スルモノ其旨ヲ税関吏ニ通知スルモノ
一 前記物品ニシテ最初納税セシ期限ヨリ三ヶ年ヲ経過セ

スシテ其所有者シテ戻ヒルトキハ納税シ要セズ
一 他国ヨリ互買港（本埠頭）上陸スルモノ、行李ニ必ス税関吏、検査シ受タルモノトス

一 前記物品、上陸者自身ノ所有物タルト見テラ問ハズ税関吏、評價ニ依リテ制規、税ヲ課スルモノトス

輸入税ヲ課スル割右并ニ品目表、如シ
武器、彈藥、軍用品類

一 銃器（拳銃ヲ除ク） 一 個ニ付 九拾留

二 銃身 一 個ニ付 參拾留

三 拳銃	一 個	松五箇
四 銃身 (拳銃用)	今	松前
五 銃器 (要るん、スプリング)	今	八箇
六 銃床、照星類	今	五箇
七 銃器之属え各具	今	松前八箇
八 火薬製造法、炸薬等、要る各具	今	松前
九 右外武器及弾藥軍用品、原價、一割		
酒類		
一 麦酒類	松前	松前
二 酒精	今	五箇
三 飲用其他目的、食使用、適する精酒	松前	五箇
四 シャンパン類	松前	松前
五 葡萄酒類	今	松前



六 鴉片	八ナト三ニ付 貳拾四兩
七 塩	
八 油類	売がロシニ付 六ヒリス
輸出入税ノ課スルモノハ茶ノミシテ大凡ハ十ニ斤ニ付三アシナノ割合ナリト云フ	
孟買布ニ一種ノ入市税ナルモノアリ「タウソ、デューテ、ト」ト云フ其割合九ノ如シ	
一 穀物類	売がロシニ付 四安
一 麦粉	今 三安
一 酒類	売がロシニ付 四安
一 麦酒	今 六ヒリス
一 砂糖	百十三斤ニ付 八安
一 木材	二分五厘

一 薪

港カンブリー府ニ安

日本人在住教

孟買市内ニ日本人、在住スル者甚ク少ク三井物産會社、日本綿花株式會社、東京錦株式會社等、出張員同市、在リテ綿花ノ取引ニ従事スル者五名、其他賤業婦女子、新嘉坡ヨリ渡來セル者大凡ク餘アリト云フ

人種人口及外国人ノ數并ニ區別

孟買市ハ印度國內尤モ人口多數ナル市街ニシテ都府「カウラ」及ヒ「マドラス」市モ亦及バガル所ナリ

千八百二年孟買島ノ英領ニ歸セル際ニ於テ其人ハ僅カニ一萬七千人ニ過セザリシモ千七百十六年ニ於テ一萬六千人ニ増加シ其後千八百十六年ニ於テ政府ノ統計ニ依リハ

英國人

軍人以外者

一萬八千四百



陸海軍人

式四六〇

耶穌宗主人、ホルトカ人、及米國人一、一、五〇〇

シユース人 八〇〇

「フホモツト人 式八〇〇〇

「ヒンツース人 一〇三、八〇〇

「バーミール人 一三、一五〇

合計

一六一、五五〇

右ニ示セルが如ク、於方千五百五十人及べリ

世界各國何レノ州港場ニ至ルト、至モ孟買市ノ如ク種々人種

國民、集各居住スル所ナレトス、即チ亞細亞人種中ノ各種ハ皆ナ

「コホメット」若シテ「ヒンツース」等、各其崇拜スル所ノ宗教ニ依リテ

團體ヲ組織シ、種族ヲ形作シ、如シ此、如クミテ其宗教ヲ

異ニスル所ハ、氷炭相容シカザル有様ナリ

千九百二十一年五月四日市に於ける人口の男女の區別に宗派の區別を依りて計算せられたる如し

種別	男	女	合計
ヒンヅ	三四六、八一五	一九七、四六一	五四三、二七六
マサルマン	九六、〇六五	六〇、一八二	一五五、二四七
ジエーンス	一九、三一七	五、九〇八	二五、二二五
耶穌宗	三〇、四三七	一四、八七三	四五、三〇〇
ハリーイス	二四、七〇五	二二、七〇三	四七、四〇八
ジユース	二、九九〇	二、四三一	五、〇二一
佛教	一三七	五三	一九〇
アセイクト	一一	五	一六
アグリースタッフ	四	二	六
ブラモ	一二	三	一五



合計 五二八、〇九三 三〇三、六七一 八二、七六四

孟買市一般の景況

孟買市の平坦なる一市街にシテ其西北ニ多クシ「マラバーヒル」ト名クン
一小丘アルニ市街ハ政外人居住地に土人居住地トニ區別スル
ヲ得ヘク政外人ノ重モ「商業」ヲ營ミ居ルニ市ノ南端海岸ニ接
シタル位置ニシテ會社商店屋ヲ列シ而シテ其居住地ハ「マラバー
ヒル」附近ナリトス

土人居住地ハ道路狹隘人道車馬道ノ區別アルヲナシ三階若クハ
四五階ノ白壁軒ヲ列シテ屏風立ニ數十家族一家屋内ニ棲息
ス土人居住ノ家屋ハ其構造大ナリト垂モ甚粗クシテ屋内ヲ裝飾
スル等ナリトス

土人居住地往來ハ屈曲甚クシテ街衢ハ順序ナシ土地ハ慣レサルモ
ノ其中央ニ至ルニ必ス方角ヲ失フ

市内ニ覽スルニ往來者ノ服装種々難多ニシテ各其宗派ニ從ヒ
 服装シ異ニスバ一トシテハ男子ハ必ス冠ヲ如キ黒色トシ帽ヲ戴
 戴キ外套ニ類スル上衣并ニ袴ヲ着用シ靴ヲ穿ツ婦人ハ帽ヲ
 戴キフナトト虫モ腰部ヨリ胸部ヲ纏ヒタル上衣上辺ヲ以テ頸部
 シ覆ヒ必ス靴ヲ穿テ裸体ヲ露ハスヲナシ亦右ト左ト外ハ必ス下衣
 シヲ着用セリ

「マホメツト宗」トヒツツト宗如キ一般印度ノハ男女共ニ跣足トシテ
 婦人ノ如キハ筒單ナル一枚ノ布ヲ以テ腰部ヨリ体ノ上部ヲ覆ヒ別
 腰巻ノ如キモノヲ用ユ而メ往來ソ歩行スルニ當リハ必ス之ヲ股服ノ
 間ヨリ卷上ルルヲ常トス蓋シ歩行ニ便ナルカ故ナルヘシ

印度ノハ單ニ服装上ヨリ論スルハ「バール」トシテ人ノ劣ル教等ナリトス
 然レモ能ク事ニ耐ヘ其性質虚飾ヲ願ヒス一意甚高財ニ餘
 念ナキモノノ如シ故ニ「バール」トシテ又ヨリハ却テ印度ノ人ノ富貴家



多シト云フ

市中ニ鉄道馬車并ニ乗合馬車ノ皆既定場所ヲ往
返ス車ノ色ヲ異ニシテ往返区域ノ異タルヲ示ス賃錢「半アンナ
ヨリ」式アンナナリ

馬車ハ波止場及ヒ往來ノ各所四ヶ等ニ客待ケテ為シ居ル
我々力車ノ異ナラズ雇賃ハ普通ノモノニテ一日五圓半日三圓三
十分若クハ一時間程距離ヲ雇ヒタル半留ヨリ一留ヲ通
常ノ賃錢トス

旅館、重モナハモノハ「ワットソシ、ホテル、グレートウエスターン」アデルフィ
ホテル「ブリクトリアホテル」アポロホテル「セトラルボ」等トス其他ナ
クナレモ、猶ホ十數軒アリ宿泊料ハ食事并上等一日五六留ヨリ
七八留迄ナリトス

家賃ハ家構造ノ依リ種々アリト云モ、政為其他、各港ニ比スレバ

割合に廣く普通商人、店若くは事務所として得へきモノにて五月九
六十箇あり、舞臺草花の場所ニシテ少くも上等者たるモノ百五十箇を要するモ
ノアリト云モ亦場所ニ依り二三十箇ナルモアリ

孟買市に英字新聞三種あり「タイムズ」オ「インディペンデント」孟買が最上
「イングリッシュ」ニ「ネル」トス其他ニ「ニ」主語新聞アリ用を所、文字ハ
「ガンスクリット」トシテ容易と解スル能ハズ

公園は大なる「ゾウ」ブ「ク」トリ也公園トス海岸より大凡ニ哩ノ位置ニ
アリ閑靜ニシテ散步運動ニ適ス園内ニ博物館アリテ衆庶ノ
遊覽ニ供ス

政所劇場ニ「ア」ー「シ」「ン」ベル「テ」ト曰ヒ他「ラ」ゲ「テ」ト「マ」入場料
ハ「二」ル「ピ」以上「四」ル「ピ」止「迄」ナリ席ノ位置ニ依リ其價ヲ異ニス
右、劇場の於て時々主人演劇ヲ催ス「ア」リト云フ然レモ常に
主人演劇ハ「カ」ル「シ」ト劇場の於て觀覽スル得可シ



孟買市ハ土人ノ凡俗賤シク生活ノ度低キ似ル建築ノ廣大華美ナル建造物ニ富メリ即チコブイクトリヤ、タリミナ区傳車場、所會所、中央郵便局、控訴院、ラセーラス、ホム大學校、高等中學校、高等女學校、醫學校、美術學校、其他各種ノ學校病院等皆拾萬ルビ以上之ニ十萬ノ費ヲシタルモノニシテ傳車場ノ如キハ教員カ、ルビ以上ノ費ヲセリト云フ

アラバハ丘上ニ「タワ」オフ、サイレン区九モアリ即チ「バ」人ノ其同墓地ト謂フモノナリ然レニ埋テリスルニ非ズ火葬スルニ非ズ土壁ニテ圍繞シタル塔アリテ死者アルハ一死体シ其中央ニ安置ス然ルハ教分ニ出テガレニ「フオ」チユア「Dudh」ト呼ブ就鳥ノ一種教ナ羽忽チ舞ヒ来リテ死体ヲ嘯ヒ尽スナリ

右塔ハ丘上ニ五何アリテ其尤モ大ナルモノハ周圍ニ百七十六呎アリシ土壁、高サニ十五呎ナリ地上ト平面ハ部分ニ一ノ入ハアリテ之ヨリ死体ヲ

英貨ト印度貨ト、交換相場ハ時々高低アリ、本航碇泊際ニ
 於テ、英貨、壹磅、相場十六ルピートナリ
 本航ニ於テ、棄貨ト交換スル英貨ハ、壹四ニ付、或ハ六片、四片、五片、
 割合ナリ、故ニ壹磅ハ、我々七四八拾錢五厘ナリ、右ノ以テ、於テルピート、
 交換スルハ、九割

印度貨

日本貨

壹ルピー

四拾八錢七厘強

壹アルナ

叁毫強

壹ルピー

貳厘五毛強

以上各項目ニ從ヒ記載スト、魚モ僅ハ一二見聞セルモノヲ記セルニ
 過ギズトシテ、或ハ誤認ヲキシ保ト難シ、猶ホ詳細ノ事實ハ、至リテハ
 他日機會アルヲ待テ報告ヲ完フセル

明治廿七年二月七日

海軍大佐河原要一殿

海軍大佐計櫻

孝太郎



印度ノ文明太古ニ著シキトハ東西ノ學者共ニ許ス所ナリ歐州ニ於テ
 商賈ノ元祖ハヒーニシアニシテ東洋ノ元祖ハ烏ヲ其印度ナリナルヲ
 知ラニヤ古代及中世ニ於テシドン、タイアル、ウイニス、セノア、ミラコ、フ
 ロレンス、ノ諸帝が寶財ヲ以テ歐州諸國ヲ睥睨シタル所以其位
 置ノ然ラシムニ依リ亞細亞ト歐羅巴トノ商業ヲ連絡セシムキ中
 心ニ居リタルナリ今モ當時印度ノ依テ以テ貿易ヲ營ヒタル道
 路如何ヲ顧ミルニ印度ノ西岸ヨリ舟楫ノ便ヲ以テ印度洋ヲ渡リ
 パルシヤ江ヲ越ヘテバスラニ出テ爰ヨリ二途ニ分レハケクリ区河ヲ
 溯リテゴバクダツトニ出テ尚其江ヲ溯リ尽シテ陸路駱駝ニテアラ
 メニアヲ渡リ以テ黒海ノ東岸ニ至リトレビゾンドニ出ツルナリ也一ハ
 バスラヨリゴイウフレイツ河ヲ溯リテバハロニニ出テ陸路駱駝ニテ
 タドモルニダマスカスタニ至リシドンニタイアルノ諸帝ニ出ツルナリ又

他道ハ印度西海岸ヨリ海路直ニ亞丁ニ到リ陸路駱駝ノ便
 シ以テ「チヤス」ニ出テ「ナイル」江ヲ下リテ「カール」
 「アレキサンドリア」ニ出ツルナリ十五世紀ニ至リ土耳其勃興シ黒海ト埃及トヲ扼シシ
 此道路ヲ塞キ喜望峯ヲ回リテ商業ヲ營ムノ止ムヲ得サルニ及
 シテハ商買ノ中心ハ既ニ他ニ移リ一時盛栄ヲ極ムル諸市ガ俄
 カニ衰微シ致シタルヲ觀レバ當時印度ノ貿易ハ頗ル歐洲ニ
 影響ヲ及ビタルヲ知ルニ足ルナリ「バサ」ノ市場漸ク傾キ「ホルチガル」ス
 「ペー」諸國漸ク興ルニ及ビ「ホルチガル」政府ハ強大ノ海軍ヲ提シ
 印度ニ向ヒ數度ノ戦争ヲ經テ漸ク其勢ヲ張り「カリカット」
 「諸市」ニ倉庫製造所ヲ設ケ始テ歐洲ト印度トノ確實ナル
 商業ヲ營ムノ端緒ヲ開ケリ千九百四十年ヨリ千九百零年ニ
 至ル間ハ「ホルチガル」ノ名ハ獨リ印度ニ出マズ西ハ「ホルチガル」ヨリ
 東ハ日本ニ至ル迄威名赫々タリキ「ホルチガル」衰ハ「オランダ」

彼、有名ナル東印度會社、設立ト共ニ「フランス」英吉利、諸
 國モ亦密カク野心シ「印度」：挾ミ屢艦隊ヲ東方ニ派遣スル
 ニ至レリ「フランス」ハ千六百二十年ニ「フランス東印度會社」ヲ創
 立シ三十四年ニ「遂」ニ「ポシガチヤリ」ニ殖民ヲ組織スルヲ幸
 運シ得テ「英吉利」モ亦「英吉利印度會社」ヲ興シ千六百十二
 年「スウエツ」ニ製造所ヲ設ケテ「ヨリ」以來幾多ク艱難ヲ嘗シ
 緒業漸ク開クニ至キヤ「オランダ」印度會社「嫉妬」ヲ招キ「アン
 ポイ」トシ「市街」シ「岸」ケテ「其屠戮」スル所トナリ「爾來」英會社ハ
 屢セテ「撓」フス益其規模ヲ擴メ夫、有名ナル「チヤイル」トシ「兄弟
 ハ不世出」オシ以テ「東西」相呼應シ「事」ヲ處シ「日」ヲス「マドラス」
 「ベレガル」ト「ボンバ」ト、各所ニ「紅旗」シ輝カスヲ致セリ此時ニ當リ
 「印度」ハ王室衰、諸侯強ク「兄弟」權ヲ爭ヒ「骨肉」相軋ル「豺
 狼」野ニ滿キ「盜賊」必行ス「仏領」「ポシガチヤリ」ト、今ニ「シ」

プレール者アリ謂ラク印度ノ民人大ナリト云モ各宗教人種
 言語慣習ヲ異ニス且ツ其權ヲ爭フ既ニ斯ノ如シ若シ其ニ族
 ト相結托シ土兵ヲ教フルニ西武ヲ以テセバ以テ印度ヲ一統スルニ
 足ラント云及、於テカ「クライウ」氏ノ敗ル所トナリ未タ幾干ナラズトモ亦
 垂レトモ遂ニ「クライウ」氏ノ敗ル所トナリ未タ幾干ナラズトモ亦
 國政府ノ召還ヲ受ケ千古ノ名案ニ遂ニ空ニクナリタリト云モ
 「クライウ」ヘスチシク以下英吉利ノ政治家、印度ヲ一統ス
 ルノ方策ヲ授ケタルハ實ニチウプリー其人ナリト謂ハルヲ得ル
 「クライウ」氏ノ英邁ヲラセス、オランダ、ポルトガルノ殖民ヲ印度ヨリ
 松ヒ始メテ英國ノ印度ニ於ケル殖民ノ基礎其確實ヲ致シテ
 ルハ實ニ千七百六十七年ナリ年来「ヘスチシク」コルヒウオリシ、ウイ
 スレー「バートン」「マントウ」「アム」ハースト「ベシチシク」オークランド
 「エシバル」「カルヂニス」「タルハウエー」ノ諸政治家輩出シ千七百

六十八年より千八百五十七年ニ至ル迄各其英オラ印度ノ國事
 致セリ然レモ國家公共ノ事尚私立會社手ニ存シ百弊
 存リ興リ爭亂相踵キ復タ如何トモナスベカラスガルノ状ヲ
 望セリ夫レスベシ、ポルトガル、オランダ、殖民ガ東西ニ沈淪シ
 タルハ各其專買ノ位置ニ伴フ百弊ヲ致ス所ニ非ズヤ然レモ
 則チ英吉利印度會社豈獨リ其運命ツ異ニスルヲ得レヤ
 事情既ニ斯ノ如シ且ツ英國一タヒ東國ノ殖民シ失フテヨリ
 漸ク專買ノ非ナルヲ悟リ千八百四十一年ニ彼、有名ナル政治家
 罗伯特ピール氏内閣ニ入ルニ及レテコブレン、フライト、諸氏内外
 ヲ併輔テ自由貿易ノ真理ヲ唱ヘ遂ニ航海條例防穀令
 ヲ廢止スルヲ得タリ氣運ノ向フ所復如何トモ為レ可カズ久クテ
 東洋ノ貿易ヲ壟斷シタル印度會社モ今テ去ル三十六年
 ノ爭亂ト共、其終ヲ告ケ翌年十月一日、布告ニ依リ英國

女皇陛下ハ印度ニ億五千万ノ善男善女ニ君臨セラレ山ハ
 鉄道電信ヲ敷キ河ノ水道堤防ヲ造リ富源ハ日月ノ新
 ナルノミナラス沿岸ノ港灣ヲ開放シ世界各國ノ商人就ラシメ
 自由ニ貿易ヲ營ムヲ得近ク我日本帝國ノ新航路ヲ益
 實ニ見ケル隆盛ヲ致セル仔細ヲ探究スルハ誠ニ感歎ニ堪
 ヘカンモアランナリ

印度ハ北ヒマラヤ山ニ界シ南ハ印度洋ニ面シ北緯八度乃至
三十七度東經六十度西度四十分乃至九十九度三十分ヲ跨リ
全キ面積百五十万平方哩アリ

國ノ北方ニ當リ一帯ノ高丘アリ海ヨリ海ニ接ル北丘脈ハ灌漑
ノ便ヲ全國ニ与フルニシテ印度諸人種トマラシ諸人種トテ
区々を線路ヲ以テ南ヲ南印度ト稱シ其以北ヲ北
印度ト呼ブ

印度ノ人口種々國民ヨリ成立シ印度人ト稱スレハ恆モ
歐羅巴人ト言フ如シ之ヲ大別スレバ同クマホメト人種アルヤン
人種トラウイダ人種等ナリ又其言語容貌ノ區別ヲ以テ
之ヲ細別スレバ殆ント際限アルヘカラス現ニ印度諸人種ニ五十有餘
ノ區別アリト云フ

昔時會社ノ印度ヲ支配スル時ニ在リテハ知事長ハ無限ノ

権カヲ有シ唯本國會社ニ對シテ其責ヲ有シ會社一方ニ
 於テ君主ニ對シ其責ヲ任シ一方ニ於テ君主及議院ニ對シ
 テ其責ヲ任スルノ制ナリシガ千八百五十八年ノ布告ニ以テ知事
 長ト内閣トノ中間ニ介セシ者ヲ廢セリ

今ヤ印度總裁ハ内閣員ノ一人ニシテ他ノ諸大臣ト共ニ内閣ヲ
 出入シ十五名ノ評議員ヲ有シ其多數決ヲ以テ萬機ヲ處
 スルト至モ急遽ナル場合或ハ秘密ニ屬スル事ニ至リテハ總
 裁自ラ之ヲ處ス憲法ニ依レハ印度ハ政廳及州廳ノ聯
 合体ト謂フヲ得可シ女皇陛下ヲ代表スル者ヲ副王又知事
 長ト稱シ中央集權ヲ掌ル各廳ハ多少其令ヲ仰ク者
 ナリ此政廳ハ全教九個ニシテ土地ノ面積九十四万平方哩人
 口二億ヲ有ス政廳長シガワルナリ、レフテナントガワルナリ、
 ナーワコンミツシヨナー或ハレシデント謂ヒ各相同ジカラズ

外尚封建ノ制ニ依ルノ國アリ

印度ノ國民ハ既ニ記述セルカ如ク其種類頗ル多ク随テ天稟

ノ氣質同ジカラスト金モ要スルニ皆迷頑固陋ニシテ進取ノ

氣概ナク自國人種間ニ在リテハ宗教言語ノ異ナルニ随ツテ相

及目シ動モスレハ輒々爭鬪ヲ事トスト金モ西洋人ツ目シレテハ

生レガウ智徳共ニ己レノ上ニ在ル者ト做シ喜レテ其身ヲ驅

馳ニ供スル者滔々天下皆是ナリ因龍ガ久キ漸ク倭ヲ成シ

百五十萬里ノ方土三億ノ人口靡然一障ノ西風ニ嫗シ自ラ

起ツ能ハサルヲ怪シマサルノミナラス却テ其使役ヲ甘ニスルハ宗

教ノ弊其骨ニ徹シ復タ救フヘカラサルニ至リタレハナリ今

ヤ英國ノ政治家ハ印度國內ニ於ケル各種ノ宗教ヲ政治

ニ利用シ之ヲ以テ國內人心ヲ離間シ之ヲ以テ互ニ相交目セ

シノ之ヲ以テ互ニ相制肘セシム若シ印度人ヲ比シテ尺ク耶

蘇教ト爲セハ印度ノ危殆累卵帝ラサレシ故、國內ニ於
 ケル各種ノ宗教ヲ併セ存スルノ方針ヲ執ル、其跡實ニ掩フ
 能ハカルモナリ故、國內ニ宗教ノ争鬪起ル、アルモ暫ク傍觀
 シテ直ニ之ヲ鎮撫スルヲ爲サ、其害毒漸ク甚シク各教者
 間ニ怨恨互ニ銘心スルニ至リテ僅ニ起テ之ヲ鎮定スルノ跡
 アリ昨年八月当益買市内ニ於ケルマツサル人トヒシダス人
 トノ争鬪始末、實ニ好例ヲ示セル者ナリ、顧フニ僅々十カ内外ノ
 自兵シ以テ能ク三億ノ民人ヲ統御スル豈其術ナクシテ可ナラズ
 印度人ハ耕作シ以テ業トナシ穀物ヲ以テ食物ニ充テ、他ノ
 東洋人ニ異ナルヲシ九十年ノ統計ニ依レハ此業ニ從事スル
 者人口ノ總數ニ對シ實ニ百分ノ六十二ニ當ル故、政府ノ歲入ハ
 地租ヲ以テ第一トナセリ、產物ハ土地氣候ニ異ナルニ依リ各地
 同シカラス、隨テ各地其食物ニ異ニスルアリ、米食麥食者

各四分一粟食ノ者四分ニナリ故之ヲ概スレバ印度ノ食物ハ
 米麥ニアラスシテ粟ニ在リト云フヲ得ヘシ其他油種蔬菜
 菓實コリア砂糖等ハ皆收納ノ額ニ於テ大ナル部分ヲ占メ
 リ然リトモ印度ノ農業中商業ニ関シテ最大ノ要地ヲ
 占ムル錦紗若クモノ綿業ハ起源甚ク遠シトモ昔
 時ニ在リテハ國內ノ需用ニ應スルニ過キスシテ其外國ニ輸出スル
 カ如キハ其例至テ甚カリキ現時ノ隆盛ヲ致セルノ起源ハ近ク
 米國戰爭ノ時ニ在リ是ヨリ先キ英國ノ本綿製造地ナル
 シンカスシヤイア山ニ於テ使用スル材料ハ之ヲ米國ニ仰キタリ
 シニ戰爭起ルヤ其供給忽チ断絶ナリ是レ印度ニ此業ヲ
 興スル機ヲ与ヘタリ所以ナリ爾來米國平和ニ帰シ吾國ノ輸
 出著シク減シタリトモ地味ト氣候ト皆此道ニ適シ再ヒ
 隆盛ニ赴キ九十一年ノ統計ニ依リテ孟買及コシントヨリ輸出

セル生綿ノ價格ハ無慮一億三千二百二十三万三千六百八十ルピシ
 綿糸六千四百四十二万三千九百三十ルピシ成造品七百五万八千
 六百八十ルピシノ額ニ達セリ

次ニ記スベキハ麻ノ耕作ナリ其進歩發達ノ速カク敢テ綿
 業ノ謙ラズ統計ニ依テハ輸出ノ價格一億八十三万九千七百
 二十ルピシトナリ其監業モ亦至大ニ耕作ナリ此品タル輸出ヲ
 以テスレバ麻ノ下ト在リトモ其國內ニ於ケル需用ニ應スル点
 ニ於テハ却テ之ニ勝ルアルヘシ

阿片ノ耕作ハ官業ニシテ人民ノ妄リニ之ニ從事スルヲ許サズ九
 十一年ニ孟買ヨリ輸出セル金額ハ一億九百七十ルピシトシテ之ニ對スル
 政府ノ純益ハ實ニ六千万ルピシトナリキト云フ其他茶珈琲
 煙草生糸等皆要用ノ地位ヲ占ムトモ爰ニ之ヲ細記スル
 シラ別ニ商業ノ一斑ヲ覽見セシ

印度ノ商業ハ太古ヨリ既、著クシテ歐洲諸國ノ盛衰セル所
 以、皆其影響者ヲ蒙リタルノ結果タルハ、既ニ記述セルカ如ク
 太古ノ事ハ、漸ク措キ、中世以來其業務ハ次第ニ發達シ、近
 世米國戰爭「クリメヤ」戰爭「スウエーデン」運河ノ開通等ハ
 實、至大ノ關係ヲ有シ海運ノ貿易ヲシテ今日ノ隆盛アラシ
 ムルヲ致セルモノナリ印度ハ其地形ノ然ラシムルカ如ク其貿易ニ
 途、岐ル即チ陸路ニ依リ一、海路ニ依ルモノ是ナリ陸路ニ依ル
 モノハ其業確實ナルカ如シト重モ之ニ伴フテ進歩發達モ亦甚
 甚シ之、及シテ海路ニ依ルモノハ其變化實ニ極リナシト重モ
 其進歩發達ニ至リテハ實、測ル能ハサルモノアリ今一二ノ表
 シ以テ之ヲ証セシム

年度	輸 入			輸 出		
	木綿製造品	各種商品	金銀珠玉	生 綿	各種商品	金銀珠玉
1840-44	319,000,000	769,000,000	276,000,000	234,000,000	1,379,000,000	460,000,000
1845-49	375,000,000	914,000,000	307,000,000	168,000,000	1,567,000,000	1,320,000,000
1850-54	515,000,000	1,106,000,000	479,000,000	314,000,000	1,962,000,000	990,000,000
1855-59	694,000,000	1,558,000,000	1,127,000,000	311,000,000	2,492,000,000	920,000,000
1860-64	1,092,000,000	2,397,000,000	1,709,000,000	1,556,000,000	4,215,000,000	1,020,000,000
1865-69	1,574,000,000	3,170,000,000	1,762,000,000	2,598,000,000	5,586,000,000	1,800,000,000
1870-74	1,756,000,000	3,304,000,000	826,000,000	1,741,000,000	5,625,000,000	1,590,000,000
1875-79	1,929,000,000	3,836,000,000	985,000,000	1,152,000,000	6,032,000,000	2,810,000,000
1880-84	2,404,000,000	5,015,000,000	1,166,000,000	1,396,000,000	7,908,000,000	1,320,000,000
1885-89	2,741,000,000	6,152,000,000	1,362,000,000	1,340,000,000	8,864,000,000	1,640,000,000

0517

前表ハ四年毎ニ統計セラル各区分ニ就キテ之ヲ調査スレハ
 多少消長アルヲ免レスト量モ其大體ヨリ之ヲ觀察スルハ其
 進歩殊々著シト謂フヘシ又千九百九十年ヨリ九十一年ニ至ルニ至
 間ノ統計ヲ觀レバ實ニ驚クヘキモノアリ即チ輸入ノ總價格ハ九
 億九百五十四万三千八百六十ルビニシテ輸出ノ總價格ハ九
 億九百五十四万三千八百六十ルビニシテ復テ盛ナリト謂ハサルヲ得ス以上輸
 入ノ價格ニ對スル百分七十七半ハ「スエズ運河」ヲ經由ルモノニシテ輸
 價格ニ對スル百分五十八ハ亦該運河ヲ經由セリ又同年度間ニ
 印度ノ諸港ヲ出入セル船舶數ハ一万二千三百艘ニシテ其噸數七
 百六十八万四千九百五十四噸ナリ此總數ノ内百分八十二半ハ英國ノ所
 有ニ係リ百分四ハ英領印度ノ所有ニ係リ百分十一半ハ外國ノ
 所有ニ係ルモノナリ

又此輸出ノ如何ナル得意先ニ向ヘル乎ヲ調査センニ其百分五

十二五、英國ニ向ヒ十一、一五、支那：四八七、フランス殖民地：四六
 三、仏蘭西：三一五、日耳曼：二九一、白耳義：二八七、米
 國：二、三六、オーストリア：二一九、伊太利：二一三、聖倫
 一、五九、濠洲：一、五一、モリリチアス：九七、アラビア：八一、
 「サンヂバル」及「モサンビク」：七六、日本：六三、土耳其：六二、
 亞丁：六二、露西亞：向ヘルモノナリ

輸入品ノ種類ヲ調査スルニ第一、本綿、シテ金銀之次、其他、
 著大ナルモノシ銅鉄、政府兵營ノ需品、鉄道ノ材料、塩、食料、
 器械、絹布、皆輸入品ノ一部ナリ、サレバ「マニラ」ヨリ出ス所ノ
 本綿ヲ除ク外、輸入品ハ各般ノ雜貨品ニシテ一ノ見ルヘキモノナシ
 輸出品ニ在リテ、生綿第一、地位ヲ占ムル、由農業ノ部ニ於テ
 既、之ヲ先言セリ、最近ノ統計ニ依ルニ輸出ノ總價格二億六千
 三十万八千七百六十「ルビ」トナリ、之ニ次クモノハ麻業ナリ、此業、今日

アルヲ致スルハ殆モ米國戰爭ノ綿業ヲ幸ヒタルガ如ククレミア
 戰爭起ルヤ後來露路領ヨリ「フオアアアインヤイア」ニ供給セル材
 料ハ忽々絶斷シタルニ依リ印度ヨリ其供給ヲ仰クノ止ムヲ得サルニ
 至リ其濫觴トナシ爾來年々其額ヲ増シ遂ニ一億八千三万
 九千七百二十ナリヒルノ巨額ヲ見ルニ至リ此他米麥茶藍ホ
 尚軍大ニ位置シタルアリトモ爰ニ之ヲ細記スルヲ為サズ
 以上海路ニ依ルン商業ノ一班ナリ而メ之ヲ媒介スルハ「カルカツク」
 「フトラス」孟買「コラゲ」ン諸港ニシテ皆日々盛大ニ致ス就中
 孟買ハ西岸ニ面シ最モ欧州ニ近キノ故ヲ以テ其勢他ノ諸港ヲ
 凌カントス以下陸路ニ依ルン商業ノ一班ヲ見ン

陸路印度ニ輸入スル者

地名 \ 年度	1886-87	1887-88	1888-89	1889-90	1890-91
アフガニスタン	688,004.0	714,787.0	686,481.0	872,825.0	744,359.0
カシミール	538,657.0	693,174.0	812,344.0	664,088.0	559,359.0
ラダク	223,070	345,380	303,620	248,750	341,910
チベット	941,040	732,180	903,630	1,030,200	779,920
ネパール	183,673.40	184,822.90	152,813.40	155,045.1	184,114.5
シッキン及ボタム	179,210	36,530	376,790	349,540	359,520
ベンガル以北ノ諸国	552,980	434,680	434,290	486,170	616,500
シヤンカシネー諸国	478,584.0	632,158.0	898,863.0	361,267	539,967.0
カイラム	349,540	448,120	384,900	637,640	766,700
西支那	—	—	—	138,170	584,350
総計	376,656.30	417,091.40	416,615.30	375,767.80	403,031.50

0521

陸路印度の輸出入

年度	1886-87	1887-88	1888-89	1889-90	1890-91
アガ=スラ	39630090	28784800	26638150	28234520	22203850
カスミル	4268040	5310300	4957050	5641950	5661730
ラダク	224750	317120	299300	226680	285210
チベット	543810	515120	474840	435050	410250
ネパール	8747900	11371870	11154100	11715760	13085180
シッキム及ボタム	233330	295300	256310	300260	335570
ベンガル及アッサム	88530	117820	173990	137600	162850
カンチー諸州	1818260	2585020	1931150	2917420	2747980
アッサム	893840	912060	1082030	1001960	604660
西支那	—	—	—	526290	1087490
総計	56448550	50209410	46967020	51137490	46887920

0522

以上記述スルカ如ク印度ノ商業ハ海路ニ依ルモノト陸路ニ依ルモノ
 トノ二種アリテ其性質モ亦各同シカラス海路ニ依ル者ハ概シテ歐
 洲人就中英人ニシテ陸路ニ依リ營業スル者ハ東洋人就中
 印度人ナリ且ツ夫レ印度ハ大陸ニシテ三億ノ人口ヲ有シ故モ大陸
 ニ各種ノ人種國ヲ列スルカ如シ故ニ此間ニ行ルノ商業ハ殆ント
 外國貿易ト見做スヘキモノアリト雖モ此種ノ商業ハ皆土人ノ
 手ニ在ルカ故ニ統計ノ以テ徵スヘキナシ顧フニ此内地ニ於テ商
 業ハ其金額或ハ外國貿易ヨリモ遙カニ巨額ヲ占ムルアリシ
 印度ノ税法ヲ見ルニ塩ノ如キ必需品ニ重税ヲ課スルハ甚ク敬
 服ニ難シ又阿片鐵道道路橋梁堤防諸事業ハ官
 業トシテ之ヲ政府ノ手ニ收ムルカ如キモ亦多ク經濟ノ道ニ於テ欠ク
 ハ所アルヲ信スルナリ試ニ政府ノ歲出入ヲ考クルニ如シ

歲入

九十年ヨリ九十一年ニ至ル

電信	郵便	封建政府、貢税	登記	森林	所得税	関税	地方税	酒	印紙	塩	阿片	地租
七、八一〇、三四〇	一四、〇二五、〇三〇	七、六〇四、二一〇	三、六五四、四九〇	一四、四八〇、〇二〇	一六、一七三、九六〇	一七、四三二、一八〇	三四、九一二、四〇〇	四九、四七七、八〇〇	四〇、六八九、六九〇	八五、二三三、六八〇	七八七九一、八二〇	二四〇、四五二、〇九〇

造幣廠	三五四一、五二〇
司法	六、三三九、一五〇
敬言察	三、六九三、八三〇
海軍	二、二五六、〇六〇
教育	二、〇三七、四五〇
醫務	一、〇一七、五一〇
鐵道	一七二、三五九、七八〇
灌漑工事	二一、七二五、七八〇
家屋及道路	六、四七二、八九〇
陸軍	七、八五六、三五〇
利子	九、三一〇、五〇〇
養老資金	三、五七五、五三〇
紙並印刷	九、二四、七二〇

12

檢査

交換差増	七八一、九八〇
<i>Penitentiary and Prisoner Department</i>	七七六、六九〇
雑款	三、九八九、〇四〇
總計	八五七、四一六、四九〇
歳出 (同年度)	
地租	三六、七六五、九六〇
阿片	二一、八〇七、九七〇
塩	四、二九〇、一三〇
印紙	一、三〇〇、一九〇
酒	一、七五〇、五三〇
地方税	五四〇、四〇〇

關稅	一、三四六、五二〇
所得稅	二九六、四六〇
森林	七、八四一、一三〇
登記	一、九六七、三一〇
郵便	一三、九六七、四四〇
電信	七、六三九、八〇〇
造幣廠	一、二一八、八八〇
行政	一七、四〇四、六五〇
司法	三六、二五八、九一〇
警察	三八、五九六、八三〇
海軍	五、五九二、五七〇
教育	一三、七一七、三五〇
宗教	一、六六〇、〇五〇

醫務	八〇六九、三七〇
政治	七、七〇五、四一〇
文部	四、八五七、四七〇
鐵道	一七九、二三二、六九〇
灌溉之事	二七、四二一、二八〇
家屋及道路	五七、三〇九、〇七〇
陸軍	二〇六、九〇〇、六八〇
特別國防事業	四、九一八、三七〇
國債利子	四一、九五三、〇四〇
備荒救濟及保險	六、〇〇〇、〇〇〇
紙並印刷	五、九二四、三六〇
Interior and political	五、二七五、六九〇
Public buildings and	
Public allowances	二、三三七、四七〇

Hygiene and Sanitation 三〇、五、四一〇

Reports and Periodicals 二、三、五、六、六、三、〇

Repayments and Compensation 一、九、一、〇、〇、九、二、〇

雜費 二、七、四、二、二、三、〇

總計 八、三、一、五、六、九、一、七、〇

以上ノ二表ハ以テ印度財政ノ一斑ヲ窺フニ足ラン数字ハ總テ
 「ルーピ」ヲ用ヒタリ今仮リ「ルーピ」ヲ五ナ義トスレバ歳入
 ノ總計ハ四億二千八百七十七万八千二百四十五円ニシテ歳出ノ
 總計ハ四億千二百二十八万四千五百八十九円トス此金額ハ絶
 對的ニ之ヲ言フ時ハ甚ク巨額トナスヘシト金モ之ヲ百五十
 万里ノ方土三億ノ人口ニ較スルハ決シテ多額ナリト云フヘカラス

顧フニ是レ印度ノ行政事務ハ未ク完全ニ至ラス隨テ方
 土統一業モ亦尙中道ニ在リテ全カラス收税ノ支_モ未ク
 充分ニ其緒ニ就カサルノ致ス所ナラシク之ノ要スルニ印度現
 今ノ景況ヲ以テスレバ英國政府ノ印度ニ於ケル經營ハ恠モ私立
 ノ一大會社カ幾多ノ資本ヲ印度ノ方ニ投シテ之ニ對スル利
 子ヲ得ルヲ以テ其目的トナスカ如キ觀アリ

以上英國カ印度ヲ略取セル蹤跡並ニ印度今日ノ事物ヲ
 梗概セル大要ナリ是ヨリ孟買ノ記事ニ移ル順序ナリト
 雖モ元素本官ノ目的ハ商業一般ノ景況ヲ窺ハントスルニ在リ
 而シテ商業ノ大要ヲ六規ハント欲セハ須テク印度全体ノ景況ヲ
 知ラサルヘカラス果シテ然ラズバ孟買一港ノ記事ハ易フルニ印度
 一般ヲ以テセバ商業ノ大要ヲ窺フニ於テ反テ便利アリト謂フ
 可シ是レ本官ノ此篇ヲ草シテ以テ孟買ノ記事ヲ略スル所

以テリ之シ要スルニ印度全体ノ商業ハ陸路ト海路トノ二路
 アリテ而ノ海路ニ依ルモノハ「カルカッタ」「マドラス」孟買、リ
 グー、四港ナリ然ルニ「カルカッタ」「マドラス」「ラングー」三港ハ
 皆印度ノ東ナル「ベンガル」海ニ面シ唯リ孟買ノ一港ハ其西
 岸ニ在リテ「アラビア」海ニ面ス抑モ印度ノ商品ハ輸出入
 共ニ「スエズ」運河ヲ經由スルモノ其半ヲ過ク然シテ孟買ノ
 位置ハ最も歐洲ニ近ク航海亦最も便利ナルカ故ニ夙ニ商
 業繁昌ヲ致シ今日ニ在リテハ印度商業ノ中心ト称
 スルモ敢テ不可ナカルベシ本艦ノ孟買ニ入ルヤ第一ニ本官ノ
 念頭ニ存ルモノハ「日」今更ニ我日本郵船會社ノ航路ヲ此地
 ニ開クヤ生綿ヲ日本ニ送ルヲ以テ其主眼トナスト亟モ日本ヨリ
 此地ニ来航スル時、積載スル日本貨物ハ如何ナルモノシテ
 同ク日本郵船會社ハ如何ナル信用ヲ以テ此新世界ノ、立ツ

へき手、問題即ち是なり夫レ英吉利ノ印度、輸入スル物
 品ハ如何ナルモノナルカハ既ニ前ニ述ヘタルカ如ク生綿ヲ印度
 仰キテ之ヲ「ラレカスター」ニ送り完全ニ機械宏大ナル資本
 ヲ以テ賃銀、高價印タルモ相ラス低廉ニ織物ヲ製不出シ之
 ヲ印度、輸出スルナリ抑モ印度ノ民々生活、度甚低ク米粟
 ヲ食シ本綿ヲ衣装飾品ヲ要スル甚ク少シ故ニ日本ノ美
 術品ヲ当地ニ致サントスルカ如キハ決シテ其功ナキシ信スルナリ果
 シラ然ラハ石炭ヲ以テ優劣ヲ較スル一誠ニ宜ニ適スルカ如シ
 蓋印度、石炭ハ資質甚ク悪ク船舶紡績其他ノ工場
 ニ要スル需用ニ充ツル能ハス故ニ頻年之シ英國ニ仰クモ其
 額實、巨大ナリトス目下英炭ノ價格ハ十八乃至二十二留ニシテ
 日本炭十一留ナリ而シテ石炭ノ資質ヲ較スルハ英炭二十
 留ハ日本炭二十八留ニ當ルト云フ即チ資質ノ比較ハ五ト七トシ

價格比較ハ四ト七トナリ然ラハ則ク我石炭産地ニ致スル決
 エテ成算ナキ、非ヤルヲ知ルニ返ラシ、況ンヤ金銀ノ相場ハ日ニ月ニ
 其懸隔ヲ致シ我ノ利スル甚ク大ナルアルオヤ又夕次ニ日本ノ
 最大ノ意ヲ注キテ調査ヲ要スルモハ、リンカスター、機業ナリ
 現、印度ハ賃銀ノ廉尤ニ拍ハラス、遙ニ本綿シ英國ニ仰ク
 所以何ソヤ機械ノ不完全ナルト之ヲ使用スルニ熟セザルノ資
 本、大ナラサルト等ハ其大ナル原因ナルヘキヲ信ス、苟モ日本ニシテ
 此三條件ヲ具備スルヲ得ハ、リンカスター、機業ト輸産艦ヲ
 印度ノ市場ニ争ヒ、人民三億ノ得意ヲ英吉利ヨリ奪フノ敢
 ラ難カラサルヘシ夫レ先暹ハ人事之ヲ支配スト謂フト魚モ豈
 天、アリスヤ美邦ノ争擾ヲクレヒア、長岡遙ニ印度ノ幸シ
 シンノ跡ヲ觀ルニ皆天ニアラサルハナキ也然ラハ則ク銀貨ノ下
 落ハ爲リ其我日本今日ノ幸スルニ非ルヲ知ラシヤ

仏ハエム、エム、會社アリ、英ハヒアノウ會社アリテ此二者ハ巨
 大ナル資本船舶ヲ以テ世界ヲ雄飛シ其運送權ヲ爭フ一日
 ニアラス互ニ切蹉琢磨シテ業務ヲ進歩シ計リ隙ヲ乘スヘク
 ラ侍リ今日ノ常態ナリ此時ニ當リテ我日本ハ四五艘ノ七數
 ナル船舶ヲ以テ新ニ航路ヲヒアノウ會社ノ根據ナル孟買
 ニ開キタルハ素ヨリ諸會社トノ特約ニ依リ名ヲニシテ敢テ
 危險ヲ冒シタルニ非スト由モ亦官ハ當時以為ラリ郵船會社
 ハ日本諸會社トノ約束ニ依ルモノ、外ハ其モ手ヲ内外ニ出ス
 能ハサルヘトト当地ニ來ルニ及ビテ始メテ其大ニ然ラサルモノアルヲ
 知シリ是ヨリ先キヒアノウ會社ハ一噸ニ付キ十四留シ以テ運
 賃ヲ規セリ然レト郵船會社ノ航路ヲ此地ニ擴張スルノ券
 アリテ聞クハ儘ニ之ヲ九留ニ下ケテ幾何ナラス之ヲ十留ニ
 上ク航路ヲ實行シ見ルノ今日ニ及ビテハ再ヒ之ヲ四留ニ

下ケタリト云フ嗚呼。ヒアノウ會社ノ郵船會社ヲ恐ル、
 何ソ其ノ甚シキヤ夫レ郵船會社ハ外國ノ航路ヲ試ムル
 今日ソ以テ始トナスモノニシテ其内外ニ信用ヲ得サレハ生業
 言ヲ要セサルナリ此信用キ會社カ三四艘ノ少数ニ郵船ヲ
 以テニ週間ニ一回、出發ラ試ムルヒアノウ會社、於テ何カ
 アラニ同社ノ為ニ計ルニ宜シク知ラサル為ニテ郵船會社
 ノ為ニ所ニ任スヘキノミ然レ同社ハ計及ニ出テスニテ屢運
 賃ヲ上下シ遂ニ我郵船會社ヲシテ内外人ノ注目スル所ト
 為サレタルハ甚シ自ラ不利ヲ招キタルモノナラハ勿論ナリト云モ
 為メニ我郵船會社ノ信用シ内外ニ發揚シタルハ亦官ノ
 固ク信スル所ナリ況ニヤ我軍艦吉野ハ港内諸軍艦ニ比シテ
 第一ノ勢力有レ堂々タル國旗嚴肅ナ軍隊ヲ彼、示
 レ彼ヲシテ敬畏ノ念ヲ起サシメタルノミナラス我商業ノ信用

ラ發揚スルノ道、於テ活潑ナル運動シナシ恩威以テ彼ノ敬
 愛シ得タルニ於ケルヤ然リト雖モ事素ヨリ創業ノ屬シ
 基礎未ク確乎タル能ハス直ニ今ニ於テ内ニ領事ヲ派
 遣シ外ニ斷ヘテ軍艦ヲ巡航セシメ以テ内外ヨリ声援シ
 張ル今日最大要務ナリトモ
 右報告仕候也

明治廿七年二月七日

海軍大臣計片桐西次郎

海軍大佐河原要一殿

供覧

一三五

印度孟買港ノ航航ニ付意見具申

今回日本郵船會社ガ印度孟買港へ定期航路ヲ開始
 スルヤ彼阿會社ハ先キ世上ニ宣言セルカ如ク大ニ運賃ヲ減シ
 以テ競争ノ端緒ヲ開ケリ抑モ彼阿會社ハ久シク大東及ヒ
 濠洲ニ於ケル航權ヲ專ラシシ次第ニ規模ヲ擴張シ已ニ今
 日ニ在リテハ英國中屈指ノ大會社タルノ面目ヲ致セルヲハ世
 人ノ能ク知ル所ナリ試ニ孟買コロンボ新嘉坡香港ノ各港
 ニ於テ東ヨリ西ヨリ南ヨリ北ヨリ船艦相銜ニテ出入ル船
 ヲ見ルニ美ニシテ且ツ大ナルハ皆彼阿會社ノ所有ニ非ハルハ
 ナレト社、東洋及濠洲ニ於ケル業務ハ復タ盛ナリト謂フ
 シ今郵船會社ハ微々タル四五艘ノ荷船ヲ以テ彼ト競争
 スルハ殆ト望ムベカラサル事ナリ故ニ同社日本諸會社ノ

契約期限ヲ経過スル曉ニ至ラ一敗地ニ塗ルノ境遇ニ陥ル
 ナカラン乎夫レ日本、富國強兵ヲ經營スルノ國是ハ外國貿易
 易ニ在リ而テ外國貿易ヲ發達スルノ術ハ一ニシテ是ラトス
 夫先ツ海洋運輸ノ權ヲ我ニ收ムルヲ以テ第一着手トナス
 素ヨリ言フ要セザルナリ然ラズ則チ我政府ハ直接ニ金錢上
 ノ保護シ郵船會社ニ與一且ツ間接ニ内國ニ於ケル諸會
 社ヲ糾合シテ今日、契約ヲ永遠ニ繼續セシメ以テ同社ヲ保
 護スルノ方針ヲ執ル今日、急務ナルカ如シ
 右意見具申仕候也

明治廿七年二月十五日

吉野艦長 河原要一



海軍大臣伯爵西郷從道殿

追テ本文ノ開航ニ関シ孟買一船ノ人先シ察スルニ我郵
 船會社ニ相應ノ信用ヲ置キ且ツ其永續ヲ希望シ
 誠ニ好機會ト被存候

原

真

至急

軍令部長

第二局

第二局

印田

主事

印

淨馬

發見毀付濟

印

校合

十二月廿

年月日

主務

立案者

大臣

次官

印

經理局長

軍務局長

印

第一課長

第二課長

印

第二課長

第一課長

印

印

訓令案

（一週間以内）

本邦商船航路にボンベイマラバハ諸港あり該地

事情を視察せし帰朝スル

明治二十六年十一月廿日 海軍大臣

吉野艦長

官房第三三二号

母 頁

通達書

海軍

一圓間以内に於て

奉邦之兩船航路ヲ「ボーンハイ」マテ擴充セリ
地情既ニ復舊ニ歸スルニ由リ先野航路
訓令修復候旨ニ付テ

明治二十六年十二月廿日 海軍大臣

吳鎮海

巴 第 十 科 巴 四

巴 第 十 科 巴 四

Inspector

Compressor omniparens himno Bombay
圧縮機 高船 航路 ボンバー

made Rakuchoseri philologia altisomis
マデ 擴張セリ 一週間 以下

cloresco indipiseo no laterna ssa
ニ於テ 基地 景況 視

tensi multio
察シ 帰朝スベシ

0542